

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 42 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2022 年 3 月 31 日 (木) 13:30～14:50

2. 場所 Webex による WEB 会議

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 河西 (主査), 山本 (正) (副主査), 梅原 (幹事), 久田, 山本 (修),
関口, 白石, 千々松, 後藤, 中辻, 三木 (11 名)

(代理出席委員) 竹田 (宇野代理), 白瀬 (長峰代理) (2 名)

(出席常時参加者) 熊谷, 山岡, 山田 (持田代理) (3 名)

(欠席委員) 徳永, 宮脇, 小峯, 平井, 仲田 (5 名)

(欠席常時参加者) 東原, 斎藤 (2 名)

4. 配布資料

F14SC42-1	議事次第
F14SC42-2-1	人事について
F14SC42-2-2	第 41 回 LLW 埋設後管理分科会議事録(案)
F14SC42-3	関係規則等の改正前後比較表
F14SC42-4-1	改定前後比較表
F14SC42-4-2	改定概要
F14SC42-5	埋設後管理標準本体改定案

5. 議事及び確認事項

(1)出席者／資料確認

梅原幹事より, 委員総数 18 名中代理を含め 12 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた。

(2)人事について

梅原幹事より, 資料・2-1 を用いて, 人事の説明があった。委員人事 (選任: 竹田委員) 及び常時参加者登録 (山田) は, 承認された。また, 宇野委員の退任及び持田常時参加者の登録解除が報告された。

(3)前回議事録の確認

梅原幹事から, 資料・2-2 を用いて, 前回 (第 41 回) 議事録(案)の確認が行われ, 以下のコメントを反映した上で, 正式議事録とすることとなった。

・出席者名簿の当方の漢字が誤っているため修正いただきたい。(千々松委員)

→拝承。(梅原幹事)

・配布資料の内容が誤っているので修正いただきたい。(山本副主査)

→確認して修正する。(梅原幹事)

(誤) F14SC41 参考資料・3 第 52 回原子力規制委員会_資料 4_中深度処分の規制基準

(正) F14SC41 参考資料・3 埋設後管理標準本体改定案 R_変更履歴あり

・熊谷委員から議事次第に関する指摘を受けたので, その点も反映する。(梅原幹事)

(4)埋設後管理標準の改定

千々松委員より資料 3～5 を用いて説明があり、以下の質疑が行われた。

- ・資料 4-2 の p.4 で「移行抑制」を「移動抑制」と修正したとあるが、これに伴い「移行」という表現も「移動」と修正していると考えられるが、一部の「移行」という表現は「移動」に修正しない方がよいと考えられる箇所がある。その辺りも注意して確認してもらいたい。(山本副主査)
 - 「移行」のままの方がよいと考えられる箇所があるというのはご指摘のとおりだが、一部判断の難しい箇所がある。(千々松委員)
 - 段階への移行、状態への移行という表現では「移動」とせず「移行」のままがよいと考えられる。(山本副主査)
 - 例えば資料 5 の p.55 で「地下水移行経路」としている部分は「移動」にしないなどの対応をしているが、再度改めて確認する。(千々松委員)
 - それぞれについて、どのような意図で「移行」のままか「移動」にしたかを説明できるようにしておいてもらいたい。(河西主査)
 - 「移行」と「移動」についてはかなり悩んだ箇所であり、修正すべき箇所があれば指摘いただきたい。(千々松委員)
 - 気付いた箇所については別途連絡する。(山本副主査)
 - 検討の上で悩んだ箇所があれば、個別に相談するなどしても構わない。(河西主査)
- ・資料 5 の p.88 で「核種」が「各種」になっているので修正する。(千々松委員)
- ・このページの表には誤記等が散見されるので確認してもらいたい。馬原氏の論文を土木学会が引用した際に誤記している箇所もあるので、再度、確認するように。(山本副主査)
- ・資料 4-2 の p.5 の図について破線に見えないので再確認してもらいたい。(河西主査)
- ・資料 4-2 の p.8 で、「係る(かかる)」は、「関わる」が以前は従来の常用漢字表の音訓外だったことから「係る」を用いていた。平成 22 年に、常用漢字の音訓に「関わる」が追加されたのでこちらを用いるようになった。多数の官庁の文書及び法律でも「係る」を使用しているが、それはそういった経緯があったものであり、JIS で推奨される用語ではないとしても、引用しているものは変更できないため「係る」という記載はそのまま問題ない。JIS の手引に基づくとされているが、事務局の指摘箇所もすべてではなく JIS の手引に基づくとして確認すると事務局の指摘にも漏れている箇所(例えば、“2つ”→“二つ”)が見つかるため、事務局の指摘も完全なものではないと考えている。(山本副主査)
 - まずは、現段階では事務局の指摘箇所を修正したという整理で進めたいと考える。(河西主査)
 - それでよいと考える。(山本副主査)
- ・土木学会の(社)を(公社)に修正しているが、(公社)に変わる前に発行された文献に関しては(社)のままとすべきと考えるので一律で直すのではなく文献の発行時期も考慮して修正が必要。(関口委員)
 - 原子力学会も同様に(社)と(一社)を発行時期で修正が必要ということか。(千々松委員)
 - 原子力学会も発行時期で修正が必要。(河西主査)
- ・海外の団体 ANDRA などはずべて大文字の表記での統一で問題ないか。(千々松委員)
 - 異論はないようなのでこれで問題ない。(河西主査)

- ・資料 4-2 の p.3 で規制期間終了後も国による指定廃棄物埋設区域が設定されているのは、法令で定まっているのか。（河西主査）
→法令で定まっている。（関口委員）

(5)今後の予定

- ・5月の原子燃料サイクル専門部会へ、最終報告として提案を予定している。一部、専門部会までに対応が残っている点について、専門部会前に再度分科会を開催する予定としている。日程については別途調整する。（梅原幹事）

以上